

○体育科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和3年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

*令和2年度の改善プランの検証

子ども同士や教師と子どもで教え合い、学び合う中で、技能の習得が進むことが分かった。運動ができることで楽しさを感じることができ児童が増えている。一方で、できることやゲームや試合の勝ち負けに重きをおく児童がいる。できることや勝ち負けに偏重するのではなく、運動の特性にふれ、体をおもいきり動かし体育の学習の楽しさに触れさせる学習活動をさらに進めたい。校舎の建て替えに伴い、狭い校庭なので、狭い中でも運動量を確保できるような単元を行っていく。また、自分に必要な練習や課題、目標を立て、取り組むことで、よりよい活動ができると考えるため、めあてを意識した授業を行っていく。自己の課題を確認するため、ICT機器の活用を目指す。

*令和3年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
体育 知識及び技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> 運動経験の差が大きく、体の動かし方の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> マット運動やボール投げ、固定遊具などは未経験または経験が浅い児童が多く、思い通りに体を動かさずに技能を習得できない様子が見られる。 走り方や投げ方の動きがぎこちなく、理解しているように動けない様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の導入の場面では、主運動に繋がる運動遊びを取り入れ、多様な動きを知ったり、それに慣れたりできるようにする。 手や肘、膝などの部位に着目した声掛けをし、遊びの中で自分の体の動かし方を試す活動時間を十分にとる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 運動の技能に個人差が見られる。 積極的に運動を行おうとする児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れない運動遊びでは体の使い方がぎこちない。 児童によって運動経験や動きに対する理解力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現遊びや鉄棒を使った運動遊びなど、児童が日常的に取り組めるような運動遊びの中に基本的かつ多様な動きを取り入れて身に付けられるようにする。 単元を通して身に付ける技能を明確にして活動に取り組みさせる。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 運動好きな児童は多い。 感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等による運動量低下で、全体的に体力低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒運動。跳び箱運動など、器械運動系の経験値が不足している。 50m走では、全力で真っ直ぐ走るのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動量を確保できるように組み立てる。 ICTを有効的に活用し、自分が行っている姿をタブレットで録画し、技のポイントを抑える指導を行う。 基本的な体の動かし方を教師が示範したり、動きのいい児童を手本で見せたりして、真似をさせる。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな児童が多い。 感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等による運動量低下で、全体的に体力低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 投力が低いと感じている。外遊びができるときはボール遊びをしている児童もいるが、力いっぱい遠くへ投げることが難しい。 昨年度水泳の授業ができなかったこともあり、泳力は個人差が大きい。クロールも不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール運動や多様な動きを作る運動の中で、投力向上につながる運動を取り入れる。 水泳については夏休み中に計画を見直し、2学期の授業の中で効率的に学習を進められるようにする。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろから運動に親しんでいる児童と、運動に消極的な児童の二極化が見られる。 感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等により、運動量低下、技能の低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業が運動習慣を身に付けさせ、運動技能を向上させるための要だと教員が認識し、運動量を確保しながら、各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けさせるようにする必要がある。 できる児童はどの運動も得意で、できない児童はどの運動も苦手というような運動の技能にも二極化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わわせるためにも、基本的な技能を身に付けられるように、単元計画の前半で技能のポイントを絞った指導を行うようにする。 個に応じた目標に沿って個別指導を充実させ、一つの運動でも技能が得意と思える領域を増やしていく。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策、校舎改築により、例年よりもかなり運動の経験が低い。また、筋力低下や体力低下も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動する場所の確保、児童の実態を考慮した安全な学習内容の精査をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた場所、時間の中で効率的に学習ができるよう、タブレットを活用し、動画資料をみたり、自分の動きを撮影して確認したりする。 組体操など、運動会の演目は、安全に行えるよう計画的に練習を実施する。
	一年	<ul style="list-style-type: none"> 走り方やボールの投げ方、マット遊びなどについて、めあてを意識して取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の差が大きく表れ、前回りやボール投げの経験が少ない児童は、コツやポイントの理解が不十分なことがある。 活動を楽しむことに夢中になり、めあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、ペアやグループで運動を見合う活動を取り入れ、友達のよい動きに関心をもたせる。また、見本となる動きを見せ、その動きを真似してコツをつかませる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 毎時のめあてに向かって課題に取り組もうとする様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の個人差がある。ボール運動など日常の活動が少ない児童は、動きが小さく不十分である。 活動の楽しさだけに気が向いてしまい、学習のめあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの課題カード・動画や友達の様子を通して、動きのポイントを具体的に提示するようにする。 振り返りを通して、楽しく運動をするきまりについて考える時間を設ける。

思考力、判断力、表現力等	三年	<ul style="list-style-type: none"> 各単元、めあてやポイントを意識せず運動を行う児童が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の楽しさに没頭し、めあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや友達の動きを通して、動きのポイントを具体的に提示するようにする。 振り返りを通して、楽しく運動をするきまりについて考える時間を設ける。 	
	四年	<ul style="list-style-type: none"> めあて、ポイントを意識せずに取り組む児童がいる。また、教え合う意識が全体的に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントがわからなかったり、自分の課題を伝えていなかったりしたため、教え合いにつながりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや動画などを使い、視覚からポイントがわかるようにする。 練習場面の待ち時間などを活用し、教え合うことを習慣化する。 	
	五年	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合いをする際に特定の児童ばかりが話をする場面が見られる。 友達の運動の様子を見て、自分の動きにも取り入れようとする児童がいる。 技や動きができていても技能の説明のできる児童は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 体のどの部分がどのように、どんな順番で動いているかまで、動作を分解し理解できている児童が少ないため、なかなか言葉にならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が課題解決を図れるように、タブレットを活用し、自分や友達の動きを見ながら説明できるようにする。 手本や発表をする児童の動きを事前にタブレットに撮影しておくなど、スローモーションして見ながら説明できるようにする。 	
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 技を上手に成功させるためのコツを理解していないまま闇雲に練習している児童がいる。ゲームなどでは、作戦をたてて適切なプレイをみんなで考える姿はあまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 技のコツを丁寧に指導しきれていない。 作戦の有用性を実感できるような学習展開にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し、動画資料を用いて、スローモーションで動きを確認する。教員も可能な範囲で模範の動きを見せる。 作戦を用いて上手にプレイできている児童を紹介して賞賛するなど価値づけを行う。 	
	主体的に学習に取り組む	一年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、元気いっぱい運動遊びをしている。休み時間ではボールや鉄棒、フラフープなどに意欲的に取り組んでいる。 友達と仲良く遊んだり、協力して準備や片付けをする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 走る際に障害物がなくても転ぶことがよくある。 集団行動として、自分の並ぶ場所などが分からなくなる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底して行い、動き始めの安全確認を意識させる 様々な並び方を折に触れて組み込み、体験的に覚えらるるようにする。
		二年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、授業に意欲的に取り組む児童が多い。運動に苦手意識はある児童も、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 チームで行う運動では、なかなか話し合いがまとまらず、協力して行えないことがある。 個人の運動では、個々の能力に応じて活動をすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きで得意な活動には積極的に取り組むが、苦手な活動に消極的になりがちである。 チーム活動では、発言力のある児童の活躍が目立ちがちで、役割分担をして取り組むことが難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動によって身に付けたい力やめあてを明確にし、進んで活動できるようにする。 授業の流れを明確にし、見通しをもつて行うことで、児童の意欲を高めていく。 音楽を積極的に取り入れ、補助運動の際、楽しみながら活動できる場面をたくさん設定していく。
三年		<ul style="list-style-type: none"> チームで行う運動では、なかなか話し合いがまとまらず、協力して行えないことがある。 体を動かすことが好きで、授業に意欲的に取り組む児童が多い。運動に苦手意識はある児童も、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きで得意な活動には積極的に取り組むが、苦手な活動に消極的になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動によって身に付けたい力やめあてを明確にし、進んで活動できるようにする。 授業の流れを明確にし、見通しをもつて行うことで、児童の意欲を高めていく。 音楽を積極的に取り入れ、補助運動の際、楽しみながら活動できる場面をたくさん設定していく。 	
四年		<ul style="list-style-type: none"> まわりに流されながら取り組んでいる児童が見られる。(全体の雰囲気、消極的な人の取り組み方に合わせて活動している) 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な活動には消極的になり、十分な活動にならない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小グループの活動を中心とし、グループ内で対話しながら、自分たちで活動を楽しめるように指導する。 	

び 態 度	五年	<ul style="list-style-type: none"> 得意な領域には意欲的に取り組むが、苦手な領域に消極的になってしまう児童の姿も見られる。 一度やってみると、どれだけ努力しても自分にはできるようにならない、闇雲に努力してまでできるようにならないと、すぐにあきらめてしまう児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な領域に積極的に取り組んでできるようになるという、成功体験が少ない。 何をどのように練習すると、何ができるようになるか理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを児童に味わわせるために、運動前にオリエンテーションを行い、各種の運動の行い方を理解させる。 できない児童ができるようになるために、スモールステップで取り組ませる。 映像、模範演技を活用しながら、技能の動作についてきちんと指導する。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 保健の学習は運動に比べて意欲が低い児童が多い。 準備、片付けをすすんでできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健の学習を身近な問題として捉えられていない。 協力することの大切さをさらに実感させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーを招くなど、専門性の高い方からのお話を聞くことで、意欲を高めるとともに、問題を身近に感じることができるようにする。 協力して活動できている児童を称賛して価値づけを行い、他の児童にも広げている。